

2 黒板・プロジェクター等の使い方

板書の意義

黒板等を十分に活用していますか。黒板等は重要な教具であり、有効な活用は、生徒の学びを深めることにつながります。

板書の意義について考えてみましょう。

- ① 板書によって、学習内容を的確に伝えることができます。
- ② 書いて残すことで、一単位時間の流れが分かります。
- ③ 授業の記録として授業を振り返ることができます。
- ④ 生徒の考えを共有し、整理することで学びが深まります。
- ⑤ 書く作業によって、授業に程よい間が生まれます。

記載・提示場所の構造化

生徒が持参している端末に提示するのか、黒板に記載するのか、電子黒板やプロジェクターで投映するのかによって、見やすさや学習効果が変化します。

板書の意義を踏まえ、黒板等を有効活用するために、課題の提示、意見の集約、整理等の方法について、事前に計画を立て、構造化することが大切です。

また、文字の大きさ、文字の色や短冊カードの活用、書くタイミングなども計画の際に考えておきましょう。

ノートを学びに活用する

「板書を書き写す」ことだけが授業中の作業になっている生徒はいませんか。もちろん、板書を書き写すことは必要なことですが、ノートに転記する際に、自分の考えや友達の意見を書き添えたり、後で資料を調べて書き加えたりすることができるのがノートの意義です。ノート指導も併せて行いましょう。

☆板書計画を立てよう

いくら授業内容が良くても、授業中に思いついたことをそのまま板書している、生徒の学習効果は上がりません。

事前に板書計画を立てることは、計画した授業の流れを生徒目線で点検することにつながります。一単位時間の授業の流れや重要な箇所が生徒に伝わるような板書が理想です。

個別支援が必要な生徒への対応を考えよう

カラーユニバーサルデザイン

「カラーユニバーサルデザイン」とは、様々な人の色の見え方に配慮した視覚情報のデザインです。黒板の場合、赤や青のチョークが見えにくい生徒がいます。ピンク系の赤チョークが、白や青と区別しにくいと感じる生徒もいます。赤や青は線や記号等にとどめ、文字には白や黄色を使うと良いでしょう。カラーユニバーサルデザインに対応したチョークもあります。

同様に、プロジェクター等に文字を投映する際も、見え方に配慮して背景色や文字色を選択しましょう。

→ 1章 - 11

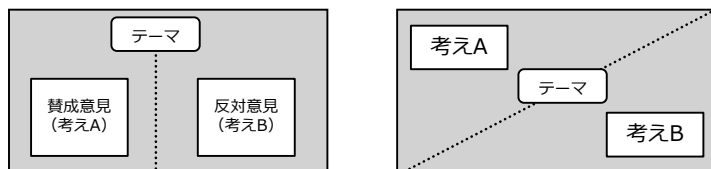
〈例〉黒板等によって生徒に提示したいもの

目標・アウトライン

本時の目標や授業のアウトラインを示すことで、見通しをもった学習を展開することができます。目標は「本時の学習によってどのような力が身に付くのか」が分かるように提示します。

意見の分類・集約

生徒の考えを整理しながら提示します。キーワードのような短い言葉で整理すると分かりやすくまとめることができます。



*キーワードを書く場所を決めて、整理していく方法が有効です。

授業の要点

授業の要点をまとめて、分かりやすく示すために、図式化すると良いでしょう。キーワードを構造的に置いて、線でつなぐなど工夫しましょう。事前にマグネット付きのカードに書いておくと、時間を省けますし、大事な点が視覚的に伝わります。

色チョークで囲んだり印を付けるのも有効です。使用する色と約束は、事前に生徒と確認しておくとう良いでしょう。

黒板とプロジェクター等の効果的な使い分け

黒板の利点は、その時間の授業が一覧できる点です。本時の目標や、授業のアウトラインといった、生徒がいつでも確認できた方がよい情報は、画面が次々と変わっていくプロジェクター等の投映よりも、黒板に記載・提示した方が効果的です。

一方、電子黒板やプロジェクター等の利点は、文字等の拡大・縮小が自在である点、生徒に配付したプリントと同じフォーマットが映し出せる点、生徒に提出させた課題をその場で提示してフィードバックできる点など多岐にわたります。それぞれの利点を生かした併用の方法を考え、効果的に使い分けましょう。

電子端末の活用にあたって

電子端末の導入によって、生徒の学習進度に合わせた個別指導や、遠隔地との協働学習など、多様かつ効果的な授業実践ができるようになりました。

一方で、授業で大切にしたい生徒の見取りが、端末操作に気を取られ、適切に行えないといった弊害も見られます。

学習効果を高めるために用いた教具によって、生徒の見取りがでなくなるのであれば、その教具の使用は適切とは言えません。

電子端末の活用にあたっては、資質・能力の育成に対して効果的であるかを考え、使用目的や使用場面を十分検討しましょう。



探究の道しるべ

- ① 黒板等の使い方について、校内で統一のルールを設けている学校があります。所属校のルールの有無について、確認しましょう。
- ② 自身の授業後の黒板を撮影し、次の点について分析しましょう。
 - ・ その時間の学びの流れが板書に残っているか。
 - ・ その授業でどのような資質・能力を身に付けさせようとしていたかが伝わる板書になっているか。
- ③ 同僚の授業後の板書を撮影させてもらい、何を意識して板書しているか教わりましょう。

特に、「一時的に書くもの」「授業の最後まで残しておくもの」「口頭だけで板書しないもの」の区別について尋ねてみましょう。
- ④ 現在県立学校に順次導入されている電子黒板の効果的な活用方法について、同僚と情報を共有しましょう。